

あなたのご寄付で支え続ける日本赤十字社
 社会に貢献する活動を行っています

2,000円

▶ 災害救助用物資の提供や被災者の支援活動
 日本赤十字社は、災害発生時に、被災者への支援活動を行っています

日本赤十字社は、災害発生時に、被災者への支援活動を行っています
 日本赤十字社は、災害発生時に、被災者への支援活動を行っています

5,000円 ▶ 小児用タブレット (250人分) =
 日本赤十字社は、災害発生時に、被災者への支援活動を行っています



日本赤十字社
 Japanese Red Cross Society

10,000円 ▶ 緊急セット (3,300円) 12人分
 日本赤十字社は、災害発生時に、被災者への支援活動を行っています



20,000円 ▶ 防災教材 (32冊) 大規模の災害発生
 日本赤十字社は、災害発生時に、被災者への支援活動を行っています

日赤 救うことを、つづける。 検索 jrc-tsudukeru.jp/

f www.facebook.com/japaneseredcross

t www.twitter.com/JRCS_PR

y www.youtube.com/user/JapaneseRedCrossPR



続ける



活動を支えていただける皆さまへ

救うことを、つづける。





苦しむ人びとを、救い続ける。

想像してみてください。

災害により、幸せな暮らしが

一瞬にして奪われてしまった人たちのことを。

紛争や貧困により、いのちの危機に瀕している人たちのことを。

日本赤十字社は、国内救護、海外救援、

防災・減災の普及啓発など

様々な活動を通して、救うことを続けています。

こうした活動はすべて、皆さまからの会費と

ご寄付によって支えられています。

皆さまのあたたかい想いと共に。

苦しむ人びとを、救い続ける。

日本赤十字社に ご支援いただき、 誠にありがとうございます。

自然災害が多発した2018年。

私たちは、皆さまのご寄付によって、
国内で起こった平成30年7月豪雨や
インドネシアで起こったスラウェシ島地震津波などで
被害にあった人びとに
支援を届けることができました。

また改めて、
日ごろの防災・減災普及の重要性を強く感じ、
講習会の実施やボランティア活動などの取り組みにも
役立たせていただきました。

これまでの皆さまからの
あたたかいお気持ちに感謝すると共に、
これからも皆さまのご支援を支えに、
救うことを、続けていきます。

日本赤十字社 社長

近衛忠輝

あなたが支える 赤十字の活動

皆さまが日本赤十字社へ
お寄せくださるご支援が、
国内外で苦しんでいる人びとへのサポートを可能にし、
ボランティアの育成や
未来を担う青少年の学びの機会などを創っています。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

※医療事業、血液事業、社会福祉事業、看護師などの
教育については別会計にて実施しています。



国内救護活動



国際活動



赤十字ボランティア



青少年赤十字



救急法などの普及



あなたの支えで実現した 国内救護活動



平成30年7月豪雨（2018年7月）

死者245人、建物被害50,724棟（1/9現在 消防庁発表）などの深刻な被害をもたらした豪雨災害。被害の大きい岡山県や広島県を中心に、全国から救護班などを派遣し救護所や避難所巡回での活動にあたりました。また、長期化する避難生活でのストレスを軽減するため、こころのケア班を派遣し、支援を行いました。

主な支援実績

救護班	87班※	安眠セット	1,493セット
こころのケア班	49班	緊急セット	2,536セット
ボランティア	1,188人	タオルケット	289枚
毛布	10,099枚	※日赤DMAT23班含む	

救護班・救援物資を被災地に



大阪府北部地震

（2018年6月）

大阪府北部で震度6弱を観測した地震。茨木市で救護班が避難所巡回を行い、高槻市内の避難所などでは、緊急セットや安眠セットなどの救援物資を配布。

主な支援実績

救護班	15班	安眠セット	155セット
緊急セット	96セット		



北海道胆振東部地震

（2018年9月）

震度7の揺れを観測し甚大な被害をもたらした地震。被害の大きい厚真町を中心に救護班やこころのケア班を派遣し、巡回診療などを行いました。

主な支援実績

救護班	53班※	安眠セット	1,924セット
こころのケア班	39班	緊急セット	510セット
毛布	1,440枚	※日赤DMAT10班含む	

被災者の声（平成30年7月豪雨）



日赤の救護班が
来てくれて、
とても助かりました！

倉敷市真備町
大森 廉音(れんと)くん

自宅が浸水し、避難所暮らしを余儀なくされた大森さん一家。3姉弟の末っ子、廉音(れんと)くんは避難所に来てから発熱し、日赤の救護班に手当をうけて、元気を取り戻しました。

あなたの支えで実現した

国際活動



インドネシア・スラウェシ島地震津波（2018年9月）

マグニチュード7.5の地震と津波により、死者・行方不明者3,400人以上、避難者13万人以上、全半壊家屋約7万軒の被害が発生。発生直後から、緊急医療保健アドバイザーを現地に派遣し、地元インドネシア赤十字社が実施する医療活動への技術指導を行いました。引き続き復興に向けた支援を継続しています。

主な支援実績

毛布	7,500枚	医療保健アドバイザー	5人
ブルーシート	4,000枚	連絡調整員	2人
テント	920張		

国境や民族、宗教などの違いを越えて



バングラデシュ南部 避難民（2017年8月以降）

バングラデシュでは、避難民キャンプに仮設診療所を設置し、医療活動を行っています。現在も70万人以上の避難民へ支援を継続しています。

主な支援実績

医療チーム……延べ170人以上　こころのケア……4万人以上
診療患者数……5万8,000人以上



中東人道危機（2011年以降）

現在3,000万人以上の人びとが助けを必要とする中東地域の6カ国で支援を続けています。レバノンでは、難民キャンプ内の病院サポートや地域保健衛生活動を行なっています。

主な支援実績

シリア国内避難民支援……1万人以上に食糧や毛布などを配布
医療技術支援………在レバノン・パレスチナ難民キャンプ5病院対象
シリア難民水衛生支援……簡易トイレ・水タンク 77セット（レバノン）

被災者の声（インドネシア・スラウェシ島地震津波）



©Australian Red Cross Antony Balmaln

赤十字医療班から、 大きな希望を 授けてもらいました！

ズルフィヤンディさん（父）、ファトニダさん（母）
シティ・ヌル・ヒュマイラちゃん（子ども）

当時妊娠中だったファトニダさんは地震で戸棚の下敷きになり、お腹の子どもの死を覚悟していたところを赤十字の医療班に救われました。「医療班のおかげで、無事に出産を迎えることができました！」と、彼女が笑顔で話してくれました。

あなたの支えで実現した

身近な赤十字の活動



防災・減災の普及

全国の小中高合わせて約36,000校へ防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」を配付し、平成30年度からは全国約1,600の幼稚園・保育所へも幼児向け防災教材の配付を行っています。また、いのちを守る様々な方法を地域密着という形で学ぶことができる「赤十字防災セミナー」を全国で実施しています。

主な支援実績

防災教材配付……………全国約36,000校
幼児向け防災教材配付……………全国約1,600カ所
赤十字防災セミナー実施……………576回
赤十字防災セミナー受講者……………28,487人

ひとりでも多くのいのちを守るために



ボランティアの育成 青少年の育成

全国の約126万人の赤十字ボランティアと約330万人の青少年赤十字メンバーが地域貢献に取り組んでいます。

主な支援実績

ボランティア研修参加者……………29,700人
青少年リーダーシップ研修参加者……………13,501人



救急法などの普及

日本赤十字社では、「救急法」をはじめとした、いのちを救う方法や健康で安全に暮らすための知識と技術を伝える各種講習を全国で実施しています。

主な支援実績

[各講習受講者数]
救急法……………545,904人 水上安全法……………69,875人 幼児安全法……………78,507人
健康生活支援講習……………93,878人 雪上安全法……………585人

参加者・地域の声

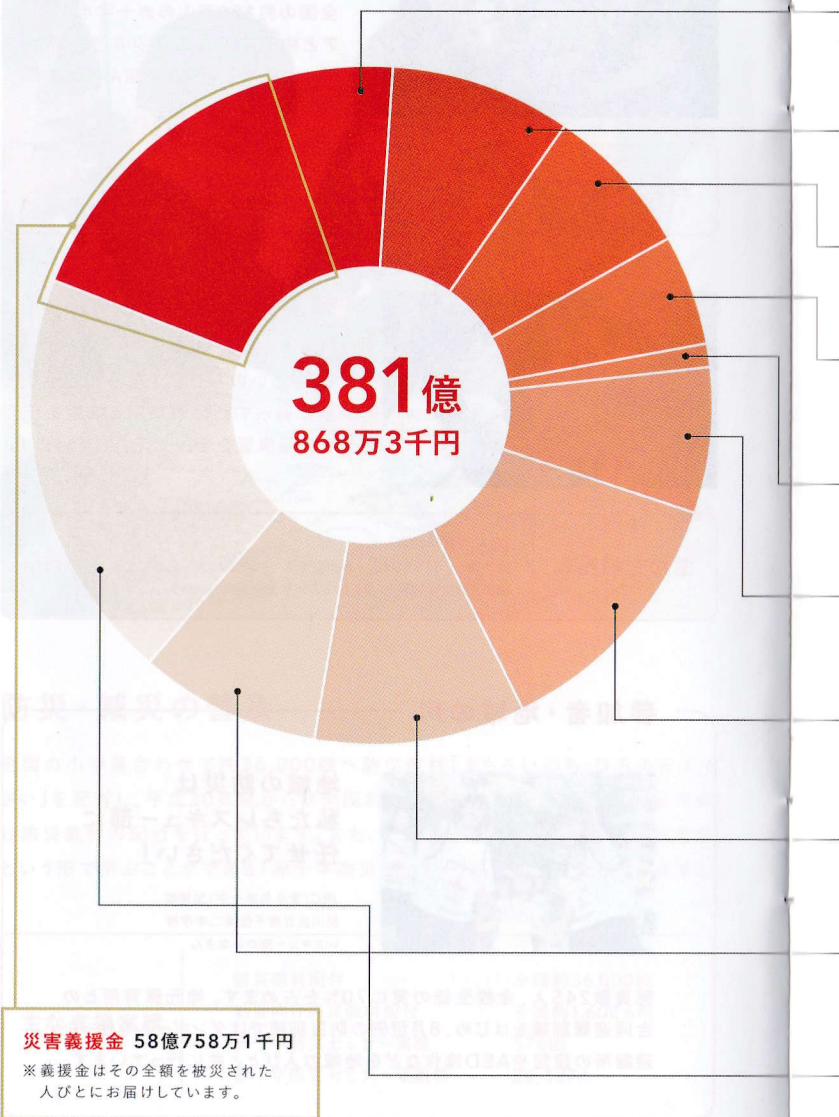


地域の防災は 私たちレスキュー部に 任せてください！

JRC(青少年赤十字)加盟校
荒川区立南千住第二中学校
レスキュー部のみなさん

部員数245人、全校生徒の実に70%を占めます。地元保育所との合同避難訓練をはじめ、8月恒例の防災訓練ではダンボールを使った避難所の設営やAED操作などを地域の人びとと共に行っています。

平成29年度 歳出(一般会計)の報告



皆さまからの寄付をもとに、幅広く、継続的な支援を行っています。

平成29年度、日本赤十字社は一般会計と3つの特別会計(医療施設、血液事業、社会福祉施設)をあわせて総額1兆2,000億円を超える予算規模の事業を展開しました。このうち、個人・法人の皆さまからいただいた会費や寄付金を主な財源として実施した活動にかかる歳出は以下のとおりです。

国内の災害対応

76億4,113万1千円(20.0%)

「守る」をひろめる活動

32億5,336万3千円(8.5%)

海外での救援・開発協力活動

28億651万1千円(7.4%)

地域のボランティア活動支援

19億4,195万6千円(5.1%)

東日本大震災復興支援

4億7,535万7千円(1.2%)

広報・普及活動

26億2,640万3千円(6.9%)

事務管理

47億6,612万6千円(12.5%)

赤十字施設の設備投資

38億7,999万5千円(10.2%)

次年度繰越金

33億428万8千円(8.7%)

翌年度以降の継続事業

74億1,354万7千円(19.5%)



国内の災害対応



「守る」をひろめる活動



海外での救援・開発協力活動



地域のボランティア活動支援

※本社・支部間で重複計上されている25億2,772万6千円については、歳出から差し引いて表示しています。

あなたのご寄付でできること

2,000円

▶ 安眠セット(1人分)

たとえば2,000円のご寄付で…
被災者の方に避難所で少しでも快適にお過ごしいただくために、キャンプマット、枕、アイマスクなどをセットにした「安眠セット」1人分を届けられます。



5,000円

▶ 小児用シロップ薬(250人分)

たとえば5,000円のご寄付で…
日本では簡単に完治するような風邪の症状で、多くの子どもがいのちを落としている国や地域に「小児用シロップ薬」250人分を届けて尊い命を救えます。



10,000円

▶ 緊急セット(3世帯12人分)

たとえば10,000円のご寄付で…
災害発生直後からの避難所生活時に必要となるものが一式収納された「緊急セット」3セット(3世帯12人分)を届けられます。



20,000円

▶ 防災教材(32冊)

たとえば20,000円のご寄付で…
未来を担う子どもたちに、主体的に防災について学べ、知識と行動力を身につけることができる防災教材「まもるいのちひろめるぼうさい」32冊を届けられます。



赤十字のサポーターに なっていただけませんか?

主に以下の方法で寄付を受け付けています。
こちら以外にも町内会・自治会を通じて、寄付をすることができます。



インターネットで

クレジットカードでの月々の継続寄付などをお選びいただくことが可能です。



口座振替で



お近くの窓口で※

※各都道府県支部または市区役所、町村役場の窓口

詳しくはホームページでご案内しています。

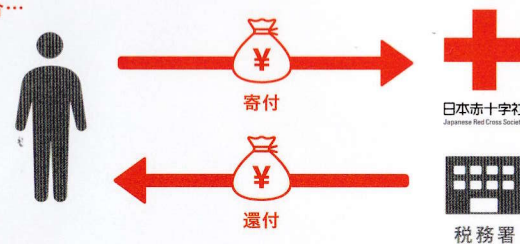
日本赤十字社 寄付する

検索

税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告することで個人の所得税や、企業の法人税の控除を受けられます。

個人の場合…



所得控除の計算式

$$A : \text{年間所得額} - B : (\text{寄付金額} - 2,000\text{円}) = C : \text{所得税課税対象額}$$

※ただし、Bは、Aの40%が上限となります。

表彰制度のご案内

活動資金や献血などにご協力いただいた場合は、表彰制度を設けています。
詳しくは、日本赤十字社の各都道府県支部までお問い合わせください。